

平成21年度救急業務におけるICT化に関する検討会 第1回議事要旨

- I 日時 平成21年11月6日(金) 14:00～16:00
- II 場所 日本消防設備安全センター第1・第2会議室
- III 出席者(順不同)
- | | |
|------|---|
| メンバー | 織田委員、片岡委員、金岡委員、小林委員、中西委員、松田委員
山尾委員、山口氏(山本委員代理) |
| 消防庁 | 開出室長、森田課長補佐、梅澤係長、木原事務官 |
| 事務局 | 落合副部長、石渡調査役、松崎主事 |
| 欠席者 | 山本委員 |
- IV 次第
- 1 開会
 - 2 あいさつ
消防庁救急企画室長 開出英之
 - 3 委員紹介
 - 4 座長選出
 - 5 会議の公開・非公開について
 - 6 議事
 - (1) 救急業務におけるICTの活用に関する検討内容について
 - (2) スケジュールについて
 - (3) その他
 - 7 閉会
- V 会議経過
- 1 開会〔事務局〕
 - 2 あいさつ
消防庁救急企画室長 開出
 - 3 委員紹介
事務局より、委員、代理出席者の紹介が行われた

4 座長選出

委員の互選により、織田成人委員（千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学教授）が選出され、就任が決定された。

5 座長挨拶

6 資料確認

事務局より配布資料の確認があった。

7 会議の公開・非公開について

織田座長の説明により、本検討会を原則として公開とすることが了承された。

9 議事

(1) ICTの活用に関する実証検証についての説明

- ◆ 事務局より、資料1に基づいて、ICTの活用に関する実証検証の概要について説明がなされた。

【意見交換・質疑応答】

- ・ 交通外傷の場合現場の状況は非常に重要、カメラで映してもらえればかなり参考になる。
- ・ 今回の実証検証では、指導医側及び医師側からカメラ操作は出来ないようになっている。音声通話で救急隊にズーム等の依頼をすることになる。
- ・ 状況によっては救急隊員が機材の操作に忙殺されてしまう、救急隊員が多忙な時には考慮する必要がある。
- ・ 熱傷の程度だとか、切断肢が再接着できるかというような細かい情報伝達も想定される。

(2) 吹田市消防局の実施している実験の概要。

- ◆ 中西委員より、ICTを活用した救急業務の事例紹介として、吹田市消防本部が運用しているモバイルテレメディシンシステムについて説明がなされた。概要は以下の通り。

1. 平成14年7月に国立循環器病センターの産学官連携開発プロジェクトチームにより、救急車の更なる救命率の向上に資することを目的として立ち上げられた。

2. 運用開始は平成20年6月2日より。
3. 伝送はNTTドコモのFOMAカードを用いたパケット通信で、インターネットを使用して国立循環器病センターのパソコンに伝送する。
4. 病院では2台のモニタを設置し、動画と12誘導心電図波形を表示している。
5. 搬送基準は心疾患のみでプロトコールはない。
6. 運用開始から平成21年9月30日までで90症例の伝送を行った。
7. 大きな効果として、救急救命士と医師とのコミュニケーションが充実した。従来の音声のみのやり取りよりも正確な情報伝達ができるようになった。

【意見交換・質疑応答】

- ・ 昨年度に金沢市で行った実証検証との大きな違いは、テレビ電話ではなくインターネット回線で情報を送っているところ。送られる情報は基本的には同じ。
- ・ 送信されるデータは、救急車内には残さないが、病院側では倫理委員会の規定に基づいて残される。画面に関してはその場限り。
- ・ 画像情報に関しては、病院は病院側の倫理委員会で、消防側は吹田市の個人情報審査委員回りに報告し、了承を得た。
- ・ システム自体を市民に知らせるために事業に関する広報を行った。市民からのクレーム等は特になかった。
- ・ あくまでも一方向からの送信で、双方向の会議システムという機能は入っていない。
- ・ 昨年度に金沢市で行った実証検証では、医師から映像を求めにいくかたちで、救急隊が特定行為を行う手技等を主に確認してもらっていた。救急隊が医師から指示をもらって機材を操作するようなものではなかった。
- ・ 昨年度の実証検証では、医師が傷病者の状態を見て搬送先が変更になったという事例はなかった。
- ・ 平成22年3月31日で終了の予定だが、吹田消防保有の機材が2台あるため、システム自体は継続していく。

(3) 実証検証の詳細について

- ◆ 事務局より、資料4に基づいて今回の実証検証の詳細について説明がなされた。

【意見交換・質疑応答】

- ・ 指令センターにいる指導医と2箇所の医療機関にいる医師の間では音声共有ができる。
- ・ 救急隊は指導医とのみ音声共有ができるため、医師の間でディスカッションした結果は指導医から伝えるかたちになる。
- ・ カメラは固定と、ある程度自由がきくカメラの2つ用意されており、画像是格段にアップしている。
- ・ 画像伝送の結果、伝送先の3次病院で受け入れる必要はなく2次や1次の医療機関で充分となった場合でも、効果があったと判断できる。
- ・ 画像伝送システムは、ポジティブな効果の他にネガティブな無駄を避けるという意味でも効果が大いいのではないか。
- ・ 救急隊が機材の操作をすることで、応急手当が中断することのないような方向で検証を行って欲しい。
- ・ ビデオ会議システムを常時繋ぎっぱなしにするのか、必要な時だけ使うのかで即応性の面で違いが出てくるのではないか。
- ・ ビデオ会議システムを設置する際、インターネットのネットワーク設定でかなり複雑なところがあるので、十分なサポートが必要になる。

(4) 実験装置デモ

- ◆ 実際の実証検証で使用する機材を使いデモが行われた。

【意見交換・質疑応答】

- ・ 病院間のビデオ会議システムが非常に良い。常駐医が居ない消防本部でも、画像伝送を行って医療機関の医師が外傷や内疾患を見分けてくれれば一番助かる。
- ・ 夜に1人で当直するような病院もあるが、ビデオ会議のように大勢の目で見て的確な判断が出来ればそれに越したことはない。
- ・ 今回は近くから撮るカメラと遠くから全体を撮るカメラを用意したので、アップの画像が必要な時以外は極力救急隊が操作をしなくて済むようになっている。
- ・ ハンディカムで現場の画像を撮影する場合には、消防車をもう1隊出してペア連携でやった方がいいかもしれない。

(5) 実証検証のスケジュール

- ◆ 事務局より、実証検証のスケジュールが説明された。

1. 11月中に実証実験を開始し、1月30日に終了。
2. 検証結果を集計し、取りまとめた後に第2回検討会を開催する。

(6) 次回開催日の決定

次回検討会は平成22年2月ごろ開催予定とされた。

10 閉会〔事務局〕

16:00閉会